

『何のために学校が存在するのか?』の問いに、「ドギマギ」へのコメント

『何のために学校が存在するのか?』の問いに、「ドギマギ」の記事に、早速コメントをいただきましたので、参考までにご覧下さい。

2006. 4. 15. 阿部幸泰

①私はまだ知識も浅く、教育現場にも出たばかりで大したことは言えません。

しかし、私の経験から1つ言えることがあります。

そして、それが私の教職を目指す一番の理由でもあります。

学校が、クラスが、自分の居場所であること。

それが学校の必要性だと私は思っています。

家庭に居場所がなくなった子どもが増えてきているのではないかと思います。

いや、増えたのではなく、見えるようになったのかもしれませんが..

私は子ども時代、自分の家や家族の中に居場所というものがなく、一般的に言われている家族の絆などないところでした。

でも、学校にも居場所はありませんでした。

私は家庭で心を開けなかったことや、自分のことを言えなかったり、認められなかったことから、学校でもそうでした。

そういう経験をすると、大人になってから（も）苦しい思いをする。

それを大学生時代に痛感しました。

本当なら、家庭で子どもの居場所を作ることが大切なのだと思うし、当たり前のことだと思います。

しかし、よく考えてみると、子どもが起きている時間のほとんどは学校で過ごします。

教職課程に在籍した私にできることは、学校での居場所作りだと、思ったので現在に至るわけです。

ただ、どうやって居場所を作るか、何が居場所か、具体的なものはまだできていません。  
もちろん、まじめに教育という視点からの理由が必要なのだと思いますが…

②教免を取るための講義や教採対策でよく「生きる力」が大切だとか言われるけれど、結局何が言いたいのだろうと理解しかねるところがありました。が、「生きるエネルギーを育てる」と言った時、こういうことか！とはっとしました。

子どもが「知りたい」「やってみたい」といったやる気を育て、積極的な行動を後押ししてあげること。

先頭を歩き、子どもたちを導くだけでなく、後ろから背中を押してあげたり、その子ががんばっていることに、一緒に付き合うといった子どもと手をつないで歩もうとすることが教師に求められているのかなと思いました。

求められていなくとも、私はそういう教師を目指したいと思いました。

そして、先生がおっしゃるように、教育活動の意味を吟味することなく出回っている教育活動の内容の数々や自分の行う教育活動に対して、どうしてそれを行うのかを考え、自分なりのコトバをもちたいと強く思いました。

大変参考になりました。ありがとうございます！

③相手がわかっている、こちらの意図を理解する能力があるなどと早合点しないで、論理的表現力だけではなくて、ことばは丁寧に、顔に笑顔をやさしく、物腰やさしく伝えて納得させる技を身につけましょう。

④この問いのことですが、これが、教師を目指す学生からの問いかけであることに、私は、少なからず寂しさを感じました。

教師を目指すのであれば、誰彼にヒントを求める前に、自分なりの考えを持ってほしい。

おそらく、自分なりの考えと社会の現実との間のギャップを感じての問いかけだろうとは思いますが、そうだとするならば、自分なりの考えを披瀝し、今の社会の何処に問題があると感じているのか、そうしたことを、きちんと整理した上で、人に助言を求めるべき

だし、それができるような力を身に付けてほしい。

また、学生の悩みに気付かずにいる教官・・・学生の話听不懂な教官、寂しいですね。

「他事優先」とまではいわないけれど、周囲の人の心情についての想像力を欠いて来ているのは、「近頃の若い者」だけの現象ではないことをいろいろな場面で感じます。

それが、教育の場での出来事だったりすると、腹立たしく、悲しい思いが強くなります。

さて、学校はコミュニケーションの場です。

まず、大人と大人とのコミュニケーションのルールを身に付けてほしい。

・・・というわけで、私であれば、阿部さんのような親切な助言はできないだろうと思います。

なんて、えらそうなことを書きましたが、もし、私が彼（彼女）に伝えるとしたら、自分が小学生の頃に毎日見ていたテレビの、こんな話かな・・・

「ひょっこりひょうたん島」では、子どもたちが声を揃えて、こんな歌を歌っていました。

” 勉強なさい！ 勉強なさい！ 大人は子どもに命令するよ。 勉強なさい！ 偉くなるために、強くなるために 勉強なさい！”

そして、サンデー先生は、たぶん笑顔で、こんな歌を返していました。

” いいえ、良い大人になるために 男らしい男、女らしい女、人間らしい人間そうよ、人間になるために 勉強なさい！”